

## 第13回 送配電網の維持・運用費用の負担の在り方検討WG 議事概要

### 1. 日時

平成30年6月1日（金） 17:30～18:30

### 2. 場所

経済産業省別館9階944会議室

### 3. 出席者

横山座長、秋池委員、岩船委員、大橋委員、小宮山委員、松村委員  
稲垣委員

(オブザーバー)

関西電力株式会社 白銀 電力流通事業本部副事業本部長

資源エネルギー庁 小川 電力産業・市場室長

同 曳野 電力基盤整備課長

同 山下 新エネルギー課長補佐

### 4. 主な御意見

- 負担が増える側の反対圧力もある中でここまで取りまとめるのは大変だったと思う。今回のとりまとめに感謝したい。発送電が分離し、多様なプレーヤーが電力システムに関わるといった中で、受益に応じて適切に負担する仕組みをしっかりと構築しなければ長期的には成り立たなくなってしまう。今回の改革は将来の送配電網にとって必要なものであることをメッセージとして強く打ち出していければと思う。今後の制度整備に向けて是非頑張っていただきたい。
- 今回のパブリックコメントでは貴重なコメントを多数いただいたと思う。とりまとめにおいては、2020年以降できるだけ早い時期に制度見直しを実施するというスケジュールだが、パブリックコメントで予見可能性を懸念する意見があったことも踏まえ、事業者の準備期間にも配慮した上で、適切に実施していくことが重要ではないか。
- 発電側基本料金の導入による系統全体のコスト最小化については、実際の系統設備の構成や費用にどのような効果が得られているか、進捗状況をフォローアップしていくことも重要かと思う。
- 基本料金による回収率の向上に関しては、送配電網の維持・運用コストの8割を占める固定費に合わせる形で基本料金率を引き上げていくということで、海外でも実施されていることではあるが、実際にどのような段階でどのように回収率を徐々に引き上げていくかは非常に難しい論点だと思う。パブリックコメントでも競争上の

懸念が寄せられているが、その他の問題点も含めて慎重に議論していく必要があるのではないか。

- パブリックコメントで利害関係者が切実な意見を寄せてくれた。ベースロード電源市場が機能するのを待ってからにしてほしいとの声も理解できる。しかし、他の制度改革の進捗を待っては、改革は進まない。ベースロード電源市場を機能させることは、託送料金制度改革をしようがしまいがやらなければいけないこと。逆も然り。それぞれ正しく効率的な制度設計をし、全体として効率的にしていくべきだと思う。
- 一方で、一つ一つについて合理的な改革をしていくことが結果的に不平等な競争条件をつくりだしていないか、といった点については別途見ていく必要もあろうかと思う。例えば、経過措置については、一般論としては既得権益を守るためのものは支持しないが、他制度では旧一般電気事業者の既得権益を守るということで経過措置を認める一方で、本制度では既得権益がないので経過措置を認めないといった議論がなされるようでは、信頼を失することとなる。そうした意味で、他の制度を見ながら、詳細設計を進めていかねばならない。
- 長い間議論を重ねてきたが、今回とりまとめに至ったということで感謝したい。発電側基本料金は、託送原価の回収確実性を高めることに加え、インセンティブ付与や効率的な送配電網の形成の観点からも導入するべきもの。他方、自家発電も含めて全ての者に対して公平・公正な制度になるよう考えるべきで、そのためにも受益と負担の考え方をしっかり整理する必要がある。パブリックコメントへの事務局回答案の記述は、受益に応じた負担の考え方について理解を促す上で重要なものだと思う。
- 今回の制度見直しは、特別高圧など上位系統の費用に着目したのとなっているが、配電系統をどうするかという話も重要だと思っている。配電網にかかる費用については、引き続き需要家負担ということで、従来の考え方のままだと思うが、この取り扱いを今後どうするかは議論しないといけない。そういう意味では、今回の改革はスタート地点に立ったにすぎないものと感じている。
- 今後、詳細設計や議論が必要な部分は沢山残っているが、例えば、利害が対立するものについては優先度を高めて議論していくと良いと思う。最終的に社会コストが削減される、適正なコスト水準になることが重要。制度を動かすとプレーヤーが動くこともあるので、そうしたものも見ながら、よりよい制度となるよう効果的に改革を進めていければ良いと思う。
- 今回の見直しを実現していくために、事業者としても詳細の議論を進めていくことになるが、本制度見直しの目的の達成に向けて、システム対応も含めてしっかりと協力させていただきたい。他方、様々な系統利用者の理解を得ることが見直しを進めていく上での要になると考えている。受益と負担の考え方や需要契約の大小で発電側の負担が変わることについて、今回、パブリックコメントへの回答として整理い

ただいたが、この考え方を系統利用者に納得してもらうことが大事であり、国からも丁寧な説明をしてもらえればと思う。

- 送配電網の費用負担の在り方については、先送りしたアンシラリー費用負担に加え、需要側のリバランス、配電系統の費用負担の在り方など、議論すべき点はまだ残っている。また、詳細設計に際しては必要に応じて本 WG で意見を求めるとのことなので、今後の議論に際してはまたぜひよろしくお願いしたい。